

FROM KOBE

From Kobe to the world! Our grateful messages for great supports from overseas countries and areas.



FROM KOBE ってなに？

神戸から世界へつなぐ、 国内外からいただいた支援への感謝と 未来へのメッセージを届けるプロジェクト

1995年1月17日、大きな被害をもたらした阪神・淡路大震災では、多くの命が奪われるとともに、まちや建物なども大きな被害を受けました。しかし私たちは、国内だけでなく多くの諸外国・地域からの支援に勇気もらい、それを心の支えとして再び立ち上がり、復興の道のりを歩んできました。

震災から21年、ここ神戸の地でG7神戸保健大臣会合が開催されます。

この会合が神戸で開催されることとなったのは、「阪神・淡路大震災から復興を成し遂げたこと」も評価の一つとされています。

兵庫・神戸がG7神戸保健大臣会合で世界に注目されるこの機会に、阪神・淡路大震災で国内外からいただいた多くの支援をもう一度見つめ直し、支援に対する感謝のメッセージとともにこれからの想いや行動につなげていく未来へのメッセージを発信しましょう。

* G7 神戸保健大臣会合

平成28年9月11日(日)・12日(月)の2日間、G7(日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ)各国の保健担当大臣やEU(欧州連合)などの国際機関代表が一堂に会し、国際的な保健課題について議論する会合が神戸ポートピアホテルにて行われます。

目次

FROM KOBE ってなに？	P1
阪神・淡路大震災とは？	P2
海外からの支援	P3
MY KOBE STORY	P5
STORY1_伊東 正和さん	P6
STORY2_西田 裕さん	P7
STORY3_金 千秋さん	P8
STORY4_本荘 雄一さん	P9
活動報告	P10



阪神・淡路大震災とは？

東日本大震災に次ぐ、当時戦後最大規模と言われた大震災。
一体どれくらいの規模で被害はどれほどあったのでしょうか？

「阪神・淡路大震災」は、日本で初めての近代的な大都市における直下型地震であり、大きな破壊力をもって、いまだかつてない大きな被害をもたらしました。

- ① 発生日時: 平成7年1月17日午前5時46分
- ② 震源地: 淡路島北部
- ③ 震源深さ: 約16km
- ④ 規模: マグニチュード7.3
- ⑤ 震度: 震度6(一部地域で震度7)
- ⑥ 特徴: 横ゆれと縦ゆれが同時に発生

厚生労働省の調べでは、1995年1月～6月の死者のうち窒息・圧死が77%に達し、主に高齢者に被害が集中し、神戸市では死者のうち60才以上が全体の59%にもものぼりました。一方で、神戸にボランティアに来た人たち延べ1,670,000人、近隣住民などによる救出が77.1%にもものぼり、ボランティアの存在や市民間の助け合い、日頃の交流がいかに重要かということがわかりました。

震災は多くの命を奪うとともに、都市や建築物に大きな被害を与え、市民に直接的な大被害を与えます。少しでも被害を小さくするためにこの経験を教訓にして次の世代に語り継ぐと共に日頃から、一人一人が防災・減災の意識を高めていくことがとても大切になります。

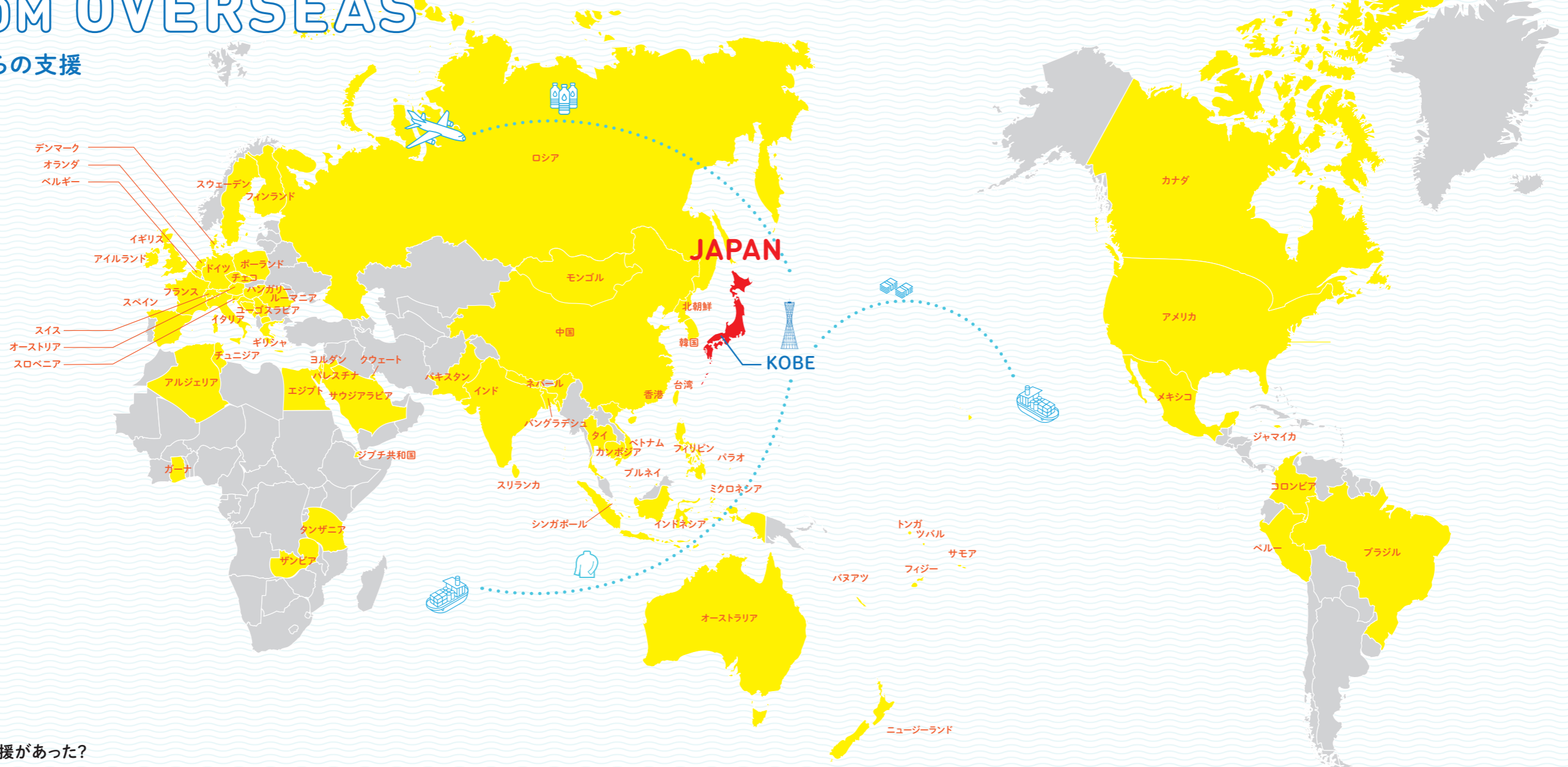
被害はどれくらいだったの？

	住宅被害	焼損棟数	負傷者数	死者数	行方不明者数
全体	639,686 棟	7,574 棟	40,792 人	6,434 人	3 人
兵庫県	538,767 棟 (うち全壊104,004棟)	7,534 棟 (うち全壊7,035棟)	40,092 人	6,402 人	3 人
うち 神戸市	122,566 棟 (うち全壊67,421棟)	7,386 棟 (うち全壊6,965棟)	14,678 人	4,571 人	2 人

SUPPORTS FROM OVERSEAS

海外からの支援

阪神・淡路大震災時、**67**ヶ国もの国・地域が神戸を支援してくれました。
一体どんな国がどのような支援をしてくれたのでしょうか？



◎ どんな支援があった？

1. インド	毛布・粉ミルクなど	11. 台湾	義援金・食料品など	21. モンゴル	毛布など	31. ミクロネシア	ミルクなど	41. ガーナ	チョコレートなど	51. オランダ	義援金など	61. フィンランド	携帯電話など
2. インドネシア	義援金・衣類・合板	12. 中国	義援金・衣類・食品類など	22. ヨルダン	義援金・寝袋など	32. アメリカ	義援金・毛布・防水シートなど	42. ジブチ共和国	義援金	52. ギリシャ	見舞状	62. フランス	義援金・救助隊派遣など
3. 韓国	義援金・毛布など	13. ネパール	毛織ショールなど	23. バヌアツ	義援金	33. カナダ	義援金・毛布・テントなど	43. ザンビア	見舞状	53. スイス	義援金・救助犬派遣など	63. ベルギー	義援金など
4. カンボジア	義援金	14. パキスタン	義援金・タオルなど	24. オーストラリア	義援金・ミネラルウォーターなど	34. コロンビア	見舞状	44. タンザニア	石けん	54. スウェーデン	義援金・自動車など	64. ポーランド	被災児童招待など
5. 北朝鮮	義援金など	15. パレスチナ	義援金	25. サモア	義援金など	35. ジャマイカ	義援金	45. チュニジア	缶詰	55. スペイン	義援金・医薬品など	65. ユーゴスラビア	被災児童招待など
6. クウェート	義援金	16. バングラデシュ	義援金・お茶など	26. ツバル	義援金	36. ベルー	見舞状	46. アイルランド	義援金	56. スロベニア	地震調査団	66. ルーマニア	毛布
7. サウジアラビア	義援金	17. フィリピン	義援金・ミネラルウォーターなど	27. トンガ	義援金	37. ブラジル	義援金など	47. 欧州委員会	人材派遣	57. チェコ	義援金・中学生招待など	67. ロシア	毛布・被災中学生招待など
8. シンガポール	義援金・食料品など	18. ブルネイ	衣類・缶詰など	28. ニューゼーランド	毛布など	38. メキシコ	義援金・毛布・缶詰など	48. イギリス	義援金・毛布・救急用品など	58. デンマーク	見舞状		
9. スリランカ	紅茶など	19. ベトナム	衣類など	29. パラオ	義援金・缶詰など	39. アルジェリア	テント	49. イタリア	義援金など	59. ドイツ	義援金・粉ミルクなど		
10. タイ	義援金・毛布・食品類など	20. 香港	義援金・ミネラルウォーターなど	30. フィジー	義援金	40. エジプト	米・肌着	50. オーストリア	義援金・児童招待など	60. ハンガリー	子ども招待など		

※1995年当時の国名で記載しています。

MY KOBE STORY

神戸で活動する人たち4人のマイストーリー

阪神・淡路大震災の教訓を活かし、活動する人たち
それぞれの視点から見える神戸について語っていただきました。



お茶の味萬
Masakazu Ito
伊東 正和さん



株式会社夢舞台
ウェスティンホテル淡路
淡路夢舞台国際会議場 顧問
Yutaka Nishida
西田 裕さん



Radio FMYY
FM わいわい
Chiaki Kim
金 千秋さん



公益財団法人
神戸都市問題研究所
Yuichi Honjyo
本荘 雄一さん



KOBE

1



いとう まさかず
伊東 正和さん

お茶の味萬 店主

1978年に長田・大正筋商店街に店舗を構え、震災を乗り越え
今も同じ場所で営業を続ける。
かつては商店街振興組合の副理事長も務める。

在日外国人が
多いまち、長田

今ヨーロッパなどでは移民につ
いて議論が交わされていますが、
長田は昔から在日外国人が多く、
様々な国籍の人が支え合って暮ら
してきたまちだと思っています。
長田を支えたケミカル産業などで
昔からベトナムの労働者を受け入
れていたり、韓国や北朝鮮国籍の
方がまちで当たり前暮らし働い
てきました。

もちろん人権問題などの困難も
ありましたが、その都度向かい
合って話し合いながら、彼らの生
きる強さとも言えるたくましさ
と共存してきており、長田の人た
ちはそうやって人間関係を築きあ
げてきました。

震災体験から
見えてきた
人と人のつながりの強さ



大正筋商店街のアーケード
震災後、まちが復興するのと
同時に再開された



味萬さん自慢の緑茶と抹茶アイス



東北への支援を通してつながった
気仙沼の被災者の方が作られた本と
ふりかけ

人と人のつながりが、
住みやすく災害に強い
まちをつくる

長田は震災で大きな被害を受け
ました。僕がお茶屋を構えるこの
商店街も全壊全焼でした。すべて
燃えてしまいました。お金もです。
それでも、何もなくなった瓦礫^{がれき}
の前にベニヤ板を出してできるだけ
早くお店を始めました。

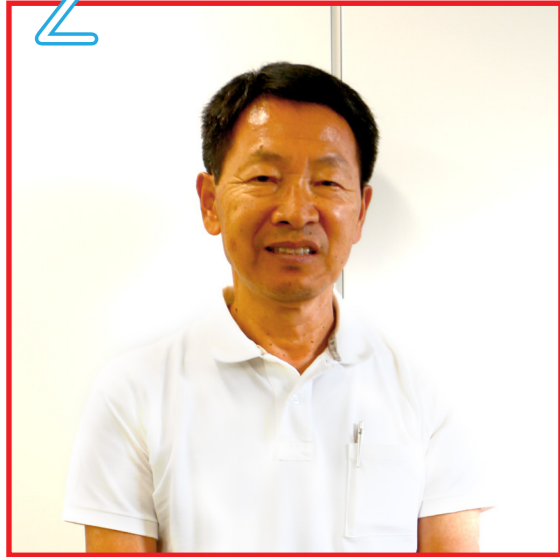
なぜなら、常連のお客さんが待っ
てくれたからです。それはと
ても嬉しいことで、ずっと積み重
ねてきた人の縁に感謝しました。

この商店街は、復興の過程で大
きく立派なものへと生まれ変わ
りました。アーケードは立派にな
りましたが、時代が変わると共に
小さな商店は経営的にも厳しくな

り、どんどんまちから離れてしま
い、これまで築いてきた人のつな
がりはどんどん薄くなってしま
いました。今思うのは、人のつな
がりは普段は見えないですが、災
害時や日常生活で困った時には
非常に柔軟にお互いに助け合う
力を持っているという、当たり
前の大切さです。自分たちのま
ちは自分たちで守り育てるもの
です。小さな商店の大切さは、
地域に根を下ろしていることだ
と思います。

国を超えて地域で支え合うとい
うことは、災害時に助け合える
つながりをつくるということです。

毎日の一人一人の小さな選択の
積み重ねが人と人のつながり
をつくり、自分たちの住みやす
いまちをつくっていくことにつ
ながります。



にしだ ゆたか
西田 裕さん

株式会社夢舞台 / ウェスティンホテル淡路 / 淡路夢舞台国際会議場 顧問

1970年兵庫県入庁。その後(財)自治体国際化協会シンガポール事務所次長としてシンガポールに赴任。帰国後、震災を経験する。震災時は、知事公室国際交流課に勤務し海外からの支援受け入れを担当。現在は、株式会社夢舞台・ウェスティンホテル淡路・淡路夢舞台国際会議場顧問など様々な分野で活動している。

海外支援の力を 最大限に活かす 受け入れ準備の重要性



インタビュー時に見せていただいた
阪神・淡路大震災の教訓が記載され
ている『伝える』



兵庫県が行った復興10年総括検証(平成15～16年度)を基に、教訓の全体像について再整理し分かりやすくまとめたもの

様々な支援を海外から受けた 阪神・淡路大震災

震災発生当時は、兵庫県の国際交流課で海外からの救援隊、救援物資や義援金の受け入れをしていました。

震災の数日後にはスイスから25人と救助犬12頭、フランスから60人と救助犬4頭の救援隊が神戸市内に入り、被災地で行方不明者の捜索活動をしました。またイギリスからもIRC(国際救援組織)の15人が来日し、捜索活動にあたっています。

救援物資は国内外から非常にたくさん送られてきました。その中でもありがたかったのは、水や大きなテント。震災直後にカナダから届いた大小様々な35個のテントは自衛隊が避難所の脇に組み立て、避難所や救援物資の備蓄のために使用されました。

またインドネシアから届いた合板は、主に仮設住宅や道の舗装に活用されました。

震災の知識を共有し、つなげる

海外支援は被災地にそれを受け入れる準備が出来ていなければ、せっかくの支援を十分に活かすことができません。

震災当時、緊急支援の受け入れ方法や、義援金の受け取り、レスキュー隊、調査隊やNGOとの連絡に必要な通訳ボランティアについて、また日本に住む外国人の安否確認や災害情報をどのように彼らへ伝えるかなど私が記録していた業務内容は、2011年に東日本大震災が起きた直後に東北の3県と共有し、役立ててもらいました。

支援を受けた被災地のできること

阪神・淡路大震災後、支援を受けた被災地として兵庫県は多くの海外への被災地に支援を行っています。例えば1999年に起きたトルコの大地震の時には、集まった義援金でトルコの子供達のための奨学金を設立し、0歳の子供が義務教育を修了するまでの14年間支援を行いました。

防災・減災のために必要なこと

日本では災害時の「受援システム(援助を受ける準備)を確立していく必要があるのではないかと思います。それから、地域に住む外国人にとっても住みやすい街を一緒に作っていくこと。そういうことの積み重ねが防災や減災につながっていくと思うんです。



きむ ちあき
金 千秋さん

RadioFMYY FMわいわい 代表理事

祖母の代からの神戸っ子。震災後2週間で放送を開始した在日コリアンコミュニティの安否確認ツールFMヨボセヨに参加。その後「たかとり救援基地」でのベトナム人への情報発信FMユーマンと合流し被災市民からの発信「FMわいわい」へと移行した。

震災時浮きぼりになった 「言葉の壁」

阪神・淡路大震災直後に、神戸の外国人被災者の安否確認をすることはとても大変でした。当時、避難所に入った在日韓国人たちは名簿に韓国名ではなく日本名を書いていたため、避難所に行って国内外の仲間たちから送られてきた物資を配りたくても送り先の本人の名前を見つけることができなかったのです。

また、難民としてやってきたベトナム人たちの多くは、日本語がわからないので避難所の場所も分からないし、自分たち外国人が避難所に入っているのかもわからず、とても不安に思っていました。

国籍を越えて人をつなぐラジオの力

その時に、ラジオなら彼らに呼びかけたり災害情報を伝えることができると気づき、長田区に立ち上げたのが韓国語・朝鮮語と日本語放送の「FMヨボセヨ」です。そのラジオ放送で「何時何分に仲間から避難所に届いたものを持っていくから、『ヨボセヨ』と声をかけたら出てきてください」と連絡しました。「ヨギ=こっち」「ボセヨ=見て」でこちを見て、という意味です。

このラジオがスタートしてから3ヶ月後、ベトナムや中南米の人たちももっと困っているのではないかと考え、ベトナム語やブラジル人、フィリピン人、中国人やスペイン語圏の人たちに向けた6言語のラジオ「FMユーマン」も始めました。この2つが一緒になり、日本初の市民が立ち上げた災害ラジオ「FMわいわい」ができました。

言葉の壁をこえて 支援を届ける 災害ラジオ



オックスファム・ジャパンの支援で製作し、東日本大震災の被災地で配った災害時携帯ラジオ



まちの画伯高木良行さんが描いたFMわいわいの看板

「違い」を認め合える 神戸のまち

FMわいわいは、震災後から現在まで彼らの生活に役立つ情報を発信する番組を放送し、ラジオを通して多様性を認め合える社会をつくる様々な取り組みを震災後、続けてきました。

地域に住む外国の人たちを支援することで、海外とのつながりは深まります。なぜなら、彼らが日本に良い印象を持つとそれを自分の国に伝えてくれるからです。そして、その良好な関係が万が一、再び災害が起きた時に海外の方が日本を支援してくれることにつながります。

つまり、様々な国の人たちと「違い」を認め、支え合うことでお互いの国の支援にもつながるということです。



ほんじょう ゆういち
本荘 雄一さん

公益財団法人 神戸都市問題研究所 常務理事・研究部長

震災時は、神戸市企画調整局総合計画課に勤務。震災以降は、復興計画の進行管理を担当し、市民とともに2度の復興検証を行い、教訓をまとめた。現在は、神戸都市問題研究所の常務理事・研究部長だけでなく、JICAでの研修のコースリーダーも担当している。

震災の経験から 生まれたボランティアと 国際支援



本荘さんが執筆された本



行政からの目線で当時の阪神・淡路大震災の支援状況についてお話頂いた

ボランティア受け入れの仕組みが なかった阪神・淡路大震災

震災の発生直前、私は神戸市役所の総合基本計画(マスタープラン)を策定する部署に勤めていました。震災発生直後にボランティアの受け入れを担当することになり、ボランティア希望者の受付を行いました。その数は3日間で6,000件になりました。当時は、ボランティアの受け入れの制度や仕組みが整っていなかったため苦労しましたが、結果的には、ボランティアの方に、物資の支給など被災者のニーズに即したきめ細やかな支援を行っていただきました。その中には、個人で海外からボランティアに来られた方もいました。言語や生活環境が壁となり、受け入れ側も海外の方も対応が難しかったのを覚えています。

被災者のニーズと、支援者の 得意をつなぐ民間の力

阪神・淡路大震災の教訓を活かし、緊急時にボランティアセンターを設置する仕組みが全国的につくられ、その後の大きな災害には、兵庫・神戸のボランティアの方の活躍も見られました。しかし、2011年に発生した東日本大震災では、被害があまりにも大きく、自治体の職員や施設が被災してしまったことも要因となり、そもそもボランティアセンターが立ち上げられない事態も見受けられました。**その時活躍したのがNPOやNGOなどの民間組織ボランティアであり、行政の手が届かない役割をいち早く果たしました。**またその支援は、専門性が活かされており量的にも質的にも評価され、海外での災害対応の経験が活かされたこ

とも評価されたことの一つです。このようなことから、**阪神・淡路大震災は「ボランティア元年」、東日本大震災は「NPO元年」と言われています。**

様々な復興の 担い手としての「外助」

また、阪神・淡路大震災では、「**公助」「共助」「自助」の3本柱が確立されました。**東日本大震災では、様々な国々から多大な支援が寄せられ、それを柔軟に受け入れることによって、復興に大きく寄与したことから、その3本柱に「**外助**」が加わりました。これまで国際支援といえば、発展途上国の支援が主に注目されていましたが、これからは、**災害面でも世界規模で協力し合い、防災や災害復興の知恵や教訓を共有していくことが重要です。**

ACTIVITY REPORT

活動報告

6月24日のキックオフミーティングを皮切りにプロジェクトがスタートしました！このプロジェクトに共感し、力になりたいとたくさんの方の大学生、震災を経験された方、遠方に住まれている方などもプロジェクトメンバーとして集まってくださいました。そしてプロジェクトメンバーと共に今回ご協力頂いた様々な方のヒアリングを重ねていき、このパンフレットは完成しました！



G7神戸保健大臣会合推進協議会 | NPO法人Co.to.hana

【運営事務局】

G7神戸保健大臣会合推進協議会 事務局：神戸市企画調整局保健大臣会合推進室 TEL：078-322-6805 FAX：078-232-7233
NPO法人Co.to.hana（受付：平日 午前10時～午後6時30分）TEL:06-6654-8830 FAX:06-7635-8227 MAIL:info@cotohana.jp

【情報提供】

P2 兵庫県・神戸市 | 写真提供：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
P3 ひょうご安全の日公式サイト（<http://19950117hyogo.jp/20050117/shiennojoukyou.htm>）

【協力団体】

FMわいわい | NGO神戸外国人救援ネット | Comunidade Brasileira de Kansai NPO法人関西ブラジル人コミュニティ(CBK) | NPO法人 阪神・淡路大震災「1.17希望の灯り」(HANDS) | NPO法人プラスアーツ | 大橋 雅史(関西広域連合広域防災局) | お茶の味萬 | 公益財団法人 神戸都市問題研究所 | CODE海外災害援助市民センター | 神戸定住外国人支援センター(KFC) | 神戸防災技術者の会(K-TEC) | The Conference on Art and Art projects(C.A.P) | 在日本大韓国民団兵庫県地方本部 | 西田 裕(株式会社夢舞台・ウェスティンホテル淡路・淡路夢舞台国際会議場) | 森田 拓也(公益財団法人 神戸いきいき勤労財団)(順不同 15組)

【プロジェクトメンバー】

伊藤 誠剛 | 井上 雅也 | 太田 真代 | 木村 尚 | 雲 | 柴田 麻琴 | 高井 千珠 | 田中 はるか | 田中 祥恵 | Naomi | 中井 優樹 | ハル | 福井 啓太 | 古江 晃也 | 堀口 里菜 | mayako | 丸岡 佑亮 | 三浦 夕佳 | Miho Sugimoto | 村上 智香 | 山田 小百合 | 若林 朋実 | 渡辺 沙耶 (順不同 23名)

◎ G7神戸保健大臣会合推進協議会

脇本 禎久 | 小林 敦美

◎ NPO法人Co.to.hana

西川 亮 | 金田 康孝 | 芝田 陽介 | 藤野 宏美 | 中村 円香 | 北牧 加代乃 | 大木 康代 | 神谷 涼子 | 野口 綾子 | 田中 佐也加

FROM KOBE